

2022 年度事業報告書

(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

フードバンク関西は、2023 年 3 月 31 日をもって第 20 期会計年度を終了いたしました。ご支援賜りました皆さまに心より感謝いたしまして、以下、事業報告をいたします。

I. 事業活動の概況

with コロナ政策のもと社会経済活動が動き出しましたが、食品や光水熱費の高騰がいたるところに影響を与えた年となりました。コロナ禍から立ち直れない世帯はもとより、生活基盤の弱い層が物価高騰により益々生活困窮に陥り、食支援を求める世帯が増加する一方で、食品関連企業においては原材料費や燃料の高騰により余裕がなくなることが懸念されました。幸い、当法人では一時的に在庫が少なくなりましたが、昨年並みの食品取扱量を確保することができ、食支援を必要とする人たちに直接または支援団体や福祉施設を通じて食品をお渡しすることができました。

コロナ以降、企業からの食品寄贈先の多様化、困窮世帯へ食品配布する団体の増加など社会情勢が変化してきています。フードバンク関西は、しっかりと食のセーフティーネットの担い手としての役割を果たしていきませんが、一方で食支援だけでは困窮世帯支援として不十分なことも明らかです。行政機関はじめ民間の支援団体との連携をさらに強くする必要を感じました。

II. 本年度の成果

(1) 生活困窮者支援に必要な食品の確保

- 1年間を通して十分な量のお米を入手することができました。
- 子どもたちの体を作るたんぱく源となる食品や野菜・果物も受け取り量が少しずつ増加してきました。

(2) 生活困窮者支援という活動目的の明確化

- 社会情勢の変化とともにフードバンクに求められている役割も変化してきています。改めて生活困窮者に対する食支援という活動目的を法人内で共有しました。
- 受け取り団体との間で交換している「食品の譲渡に関する合意書」の一部改訂を行い、団体から受益者に食品が渡ったあとの適正使用についても団体の管理を求める内容を盛り込み、提供後の食品の適正活用の担保を図ります。
- 昨年度に引き続き、会員管理についてもクラウドシステムを導入しました。支援者、関係機関の増加にも対応でき、情報をより的確に管理できるようになりました。今後は、食品提供元や食品寄贈先について入出庫管理システムとの一元化を目指します。
- 今後さらに食支援が必要なところに必要とされる食品を適切に届けられる運営体制を整えていきます。

(3) 関連各機関との連携

- 食は生命の維持には欠かすことのできないものですが、食支援だけでは生活困窮者を支えることはできません。行政や社会福祉協議会と協働の「食のセーフティーネット」事業においては、コロナ禍で開催が見送られていた「実務者の情報交換会」を開催し、連携の重要性を相互に確認しました。行政や社会福祉協議会の生活

困窮者支援の枠組みの中で、さらに当法人からの食支援が活用される余地はあると思います。今後、民間の支援団体も交え、地域の中で食支援を活用した包括的で効果的な困窮者支援の枠組みができていくように働きかけを続けていきます。

III. 2022 年度の各事業の報告

当法人の事業について、(1) 食品の回収、(2) 食品の活用、(3) 関係各機関との連携、(4) 広報活動を具体的に報告いたします。

(1) 食品の回収

① 取扱食品量

- 食品の入庫量は全体で 276.2 トンとなり、ほぼ昨年並を維持できました。食品の提供企業・団体は 165 社（うち災害備蓄品提供企業は 57 社）でした。そのうち新たに合意書を交わした企業は 24 社（うち災害備蓄品提供企業は 11 社）でした。
- 年間を通しての量の確保はできましたが、時期によって入庫量の偏りがありました。特に冷凍品・冷蔵品は冷凍庫・冷蔵庫の収納量が限られており、大量の入庫が重なり苦勞する場面もありました。寄贈品の提供時期の調整は難しいものの、年間を通しての安定的な食品の入手を目指したいです。

2022 年度取扱食品の提供者数・引取量

提供元	企業・団体数	引取重量（トン）	全体に対する%
食品関連企業・法人	108	203.3	73.6%
防災備蓄食品旧品	57	8.5	3.1%
フードドライブ	46	27.9	10.1%
他のフードバンク	3	8.7	3.1%
個人	731（延べ 1,392）	27.0	9.8%
購入食品		0.8	0.3%
合計		276.2	100%

② 取扱食品の種類

- 企業・団体・個人の両方からお米の入庫が増加しました。お米を扱う企業や農業法人からの提供を今後の米の安定的な入手につなげたいと考えています。
- たんぱく源や野菜・果物の入庫量もわずかではありますが増加しました。

食品の種類と取扱量の割合 - () 内は前年度割合。前年度は「米飯・麺」と「その他」の区別なし

食品区分	重量 (トン)	全体に対する%		備考
たんぱく質食品	18.0	6.5%	(4.9%)	卵焼き・冷凍肉魚・冷凍加工品・魚肉缶詰など
生鮮野菜・果物	50.6	18.3%	(15.6%)	
米	58.4	21.1%	(15.9%)	白米・玄米・もち米 (α米含まず)
パン	30.8	11.2%	(9.3%)	コストコ提供分
菓子	18.8	6.8%	(6.6%)	
飲料	24.6	8.9%	(5.3%)	ペットボトル・缶入り飲料
米飯・麺	15.0	5.4%		麺類・パックご飯・α米など
その他の食品	60.0	21.7%		調味料・乾物・茶葉など

③ 食品関連企業からの提供 渉外チームの取り組み

- 今年度は産業界が牽引し日本経済復活の兆しがようやく見えてきた1年でした。食品業界は急激な円安などの影響を受け在庫調整、生産ライン見直し等を行いました。これらが当然フードバンク関西にも影響がある中で、当年度取扱量並びに提供企業・法人・団体数が前年度と同程度の結果を得ることができました。既存、新規を問わず食品を提供して頂ける企業・団体に度重ねて協力要請をしましたが快く食材提供頂くことができました。これは当法人の活動へのご理解が深まったことによると思われます。「食品パック」において、回を重ねる度に内容が充実してきていることにも表れています。
- 行政・業界団体・企業の協力を得て新規企業 10 社を開拓することができました。また、食品企業展示会でのアピール機会を複数回得ることができ、フードバンク関西の周知および展示会後の引き取りが可能になったことは今後につながる成果です。

④ フードドライブ

- 以下の取り組みで回収された食品を受け取っています。
 - 量販店レジ横に設置したフードドライブボックスからの回収：阪神間のイオン系列量販店、コープこうべ店舗（西宮市は西宮市美化企画課を通じて）
 - コープこうべ：店舗に常設の他、年2回、全店舗と個配利用の組合員に呼びかけ大規模に実施
 - 株式会社カーブス：年1回、各店舗で会員に呼びかけ。12店舗から回収食品を受け取り
 - 企業・団体・学校などで不定期に実施されたもの
- フードドライブで集まった食品は、食のセーフティーネット事業や子ども元気ネット等で困窮世帯へお届けしています。「家庭で使わないもの」の回収を目的としたものではなく、「食品を必要とする人に届けて役立つ」という視点から取り組んでくださるところが増えました。提供先に需要の高いものを事前に尋ねて集めてくださることも多くなり、助け合いとしてのフードドライブへと少しずつ変わってきているように感じます。

⑤ 個人からの寄贈

- 個人からの物品寄贈は、のべ 1392 人となり前年度の 1503 人から少し減少しました。これは、フードドライブ回収ボックス常設量販店の増加などで直接当法人へ郵送するより、近くのフードドライブ回収拠点への寄付が増えているからかもしれません。また、昨今の物価高騰の影響も考えられます。一方で、子育て世帯応援食品パックの際には、どのような食品がよいか希望を聞いてくださり、購入して送って下さる方もおられ、「支援をしたい人」と「支援を必要とする人」をつなぐ役割を当法人が果たしていると感じます。お

米については、個人からの寄付がまだ大きな割合を占めており、重要な入手元です。購入して定期的に寄付くださる方、ふるさと納税を使って送って下さる方も増えました。

(2) 食品の活用

① 社会的弱者を支える非営利団体等への無償分配事業

- 「食品の譲渡に関する合意書」を交換し、毎月または年数回食品を提供した施設・団体は 168 団体でした。新しく合意書を交わして食支援を開始した団体は 13 団体（子ども食堂 4、母子支援 1、作業所 3、パントリー5）でした。
- 各施設・団体には、事務所に搬入された常温品・冷凍品・冷蔵品を原則月 1 回、受け取りを希望するところには、コストコ神戸・コストコ尼崎から提供されるパン・果物・野菜を隔週 1 回提供しています。
- 2022 年度全事業での食品提供量は 265.8 トンで、そのうち福祉施設等への提供は 88%を占めています。
- 「食品の譲渡に関する合意書」の一部を改訂し、受け取り団体での食品の適正活用とトレーサビリティの強化を図りました。毎年度末には提供食品の活用状況の報告を受け、フードバンク関西からの食支援の必要性を確認していきます。

* フードパントリー実施団体への提供

- 地域で生活困窮世帯を対象に食品の無償配布を行うフードパントリー団体への食品提供について、当法人では受け取り団体として扱い、「食品の譲渡に関する合意書」を交換しています。フードパントリー団体として適正な運営がなされているかを判断するためのガイドラインを作成し、それを基に食品提供の判断をしています。また、フードパントリー団体に対して、配布先での食品の適正管理や転売禁止、トレーサビリティ確保などを盛り込んだガイドラインの周知も行っています。
- 2022 年度の食品提供団体のうち、フードパントリー実施団体は 10 団体でした。

② 生活困窮世帯への支援事業（食のセーフティーネット事業）

- 行政・社会福祉協議会を通じて
 - 様々な理由で困窮し食糧不足に陥った世帯に対して、行政の福祉担当部署や社会福祉協議会の地域福祉生活相談担当部署からの支援要請を受けて、当法人が、缶詰・レトルト・米などの食品約 1 週間分をその担当部署を通じて困窮世帯に無償で提供する取り組みを、2012 年から実施しています。
 - 現時点で事業協定を結んで食品を提供している自治体は、尼崎市・高砂市の 2 市と、芦屋市・西宮市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・加東市・猪名川町・神戸市（9 区）社会福祉協議会と、兵庫県郡部 12 町を対象地域とする 1 民間事業所です。
 - 2022 年度前半は、兵庫県郡部を対象に生活困窮者自立相談事業を実施していた福祉事業所（ワーカーズコープ姫路）が生活困窮者への食支援事業を継続できなくなったことから、前半は当法人への食支援依頼がありませんでした。その影響もあり、昨年度より全体の支援件数は減少しました。
 - 「食のセーフティーネット実務者情報交換会」を 6 月 30 日に開催し、コロナ禍での相談現場の状況を聞くことができました。企業や市民からの食品寄贈の流れが多様化し、社会福祉協議会などでも一定量の食品の備蓄があり、相談者の状況によってフードバンク関西からの食支援と使い分けられていることもわかりました。一方、フードバンク関西からの食支援は食品の種類も多く生活困窮者の気持ちとを和ませ前向きにすることに役立っていることがわかりました。

- 個人からの直接依頼への対応
 - 新型コロナ感染拡大期のようなコロナによる失業・休業によって困窮に陥った人からの支援要請が日々押し寄せるという事態ではなくなり、前年度に比べ支援件数は激減しましたが、コロナ禍から立ち直れない世帯、元々生活が立ち行かない世帯からの支援要請は少なからず続いています。1回限りの支援では救えない世帯も多いことから、継続した支援につなげる仕組みづくりが急務と考えます。
 - 行政や社協を通じての依頼は単身者が多いのに比べ、個人からの直接依頼では家族が多いという傾向がありました。

行政・社会福祉協議会を通じて及び個人からの直接依頼に対応した支援件数

年度（4月～3月）	2020年度	2021年度	2022年度
行政・社協を通じた件数	846（1615人）	587（915人）	399（591人）
直接依頼の件数	81（174人）	1017（2661人）	266（655人）

③ 困窮子育て世帯への支援事業

- 子ども元気ネットワーク事業
 - 子育て世帯とつながりを持ち、困窮世帯の生活相談や学習支援などを行っている母子生活支援施設・シェルター運営団体・子ども食堂などの民間の団体と連携して、当法人が食支援を担い、原則1年間、毎月1回宅配で直接食品を登録世帯に届け、多方面から世帯を支援する取り組みです。2015年から母子世帯を対象に開始してきましたが、連携団体の増加、多様化に伴い、対象を母子・ひとり親に限定せず、「困窮子育て世帯」を対象とすることにしました。
 - 今年度の延べ支援件数は934世帯でした。連携団体は17団体でした。
 - 1年間の食支援で世帯の状況が改善されるとは限りませんが、「この支援によって繋がっていること、一人でないと感じられ、笑顔が生まれた」「送られてくる食品で心もからだもパワーをいただけた」などのコメントが返ってきて、苦しい中で子育てを頑張る世帯にとって効果のある事業であることを確信しております。
- 子育て世帯応援食品パック事業
 - 年2回、給食がなくなる夏休みと年末に「兵庫県内在住、3歳以上の子どもがいる生活困窮子育て世帯」を対象に公募して、各回約500世帯を選定し、米やその他食品を詰め合わせた食品パックを一斉に宅配で発送しました。募集にあたっては、地域の子育て世帯の情報を持っている行政の子育て支援窓口や社会福祉協議会などに対象世帯への案内を依頼しました。支援世帯は県内35市・郡町に及び、地域が拡大しました。
 - 食品集めについては、食品関連企業やその他企業・法人に協力を呼びかけ、フードバンク関西の活動に参加していただくきっかけとしても役立っています。
 - また、普段は施設・団体への食品提供が主なので受益者の反応が見えにくいのにに対し、この事業では食品を送った世帯から直接反応が返ってきて、子どもたちや親御さんたちにとっても喜ばれていることがわかり、ボランティアのモチベーションアップにつながっています。

夏休み子育て世帯応援食品パック

- 支援世帯数：475 世帯、1603 人
- 食品提供企業・団体数：28 団体（総重量：約 7 トン）
- 食品パックの内容：米・レトルト食品・缶詰・パックご飯・乾麺・インスタント味噌汁・お菓子など

年末年始子育て世帯応援食品パック

- 支援世帯数：494 世帯、1651 人
- 食品提供企業・団体数：33 団体（総重量：約 6 トン）
- 食品パックの内容：米・レトルトハンバーグ・缶詰・乾麺・餅・パックご飯・調味料・スープ・クリスマスやキャラクターのお菓子など

(3) 関係各機関との連携

① 兵庫子ども食堂ネットワーク

- 地域が兵庫県の中西北部にも広がり、加盟団体が 100 を超えました。運営団体代表の三役が事業の立案や遂行、広報を担うようになり、運営体制が確立してきました。企業・団体からネットワークへの支援も増え、支援物資を各拠点に配分してそこから各子ども食堂が受け取るという形ができました。全国子ども食堂支援センターむすびえの助成金を得て、シンポジウムやファンドレイジング研修会の開催や各子ども食堂へ運営支援をすることができました。今後は持続可能なネットワーク運営の形を加入団体と作っていきます。

② 行政・社会福祉協議会との連携

- 「食のセーフティネット実務者情報交換会」開催
 - 日時・場所：2022 年 6 月 30 日 芦屋市民センター301 号室
 - 参加団体：行政の関連部署（1 県 7 市）、16 の社会福祉協議会
 - ファシリテーター：神戸市社会福祉協議会市民大学学長 松原一郎氏
 - コロナ禍での生活相談部署の状況や、当法人の個人世帯への直接支援の状況について情報交換し、今後の生活相談の場での食支援活用についても、協力関係強化に向けて話し合いを行いました。
- 「ひょうごフードサポートネット」サポーター登録
 - 2023 年 2 月 2 日に開催された「ひょうごフードサポートネット連携推進会議」に参加しました。食支援に関わる各方面からの活動紹介がなされ、行政・福祉関連機関・企業・地域団体が連携して食を活用した持続可能な困窮世帯への支援体制の構築を目指すことを確認しました。その後、当法人もひょうごフードサポートネット・サポーターに登録しました。

③ フードパントリー

- 地域の生活困窮者支援として、支援が必要な人に食品を無償配布するフードパントリーの普及が期待されており、取り組む団体が増えてきています。当法人としてもパントリーの普及を目指し、フードパントリー開催団体の情報収集、視察を行いました。
- 西宮市社会福祉協議会が中心となり、地域のパントリー実施団体との連絡協議会が立ち上げられました。当法人もその中に参加しています。2022 年度は西宮市民を対象に食品無料配布会が 2 回、各 4 会場で開催され、当法人も食品提供他で協力しました。

- セカンドハーベストジャパン主催フードパントリーシンポジウム
 - 2022年10月15日にオンラインで開催されたフードパントリーシンポジウムにパネラーとして参加し、当法人の困窮者支援の取り組みについてお話するとともに、関東でのフードパントリー先駆団体の活動状況の報告があり、課題や今後の方向性について意見交換をしました。

④ フードバンク間の連携

- 兵庫県内フードバンクの情報交換会と物資の提供
 - 2023年3月17日にフードバンクはりま（辻本氏）、フードバンクあこう（米家氏）、赤穂地域活動連絡協議会（岩崎氏・オンライン参加）との情報交換会を当法人事務所で開催いたしました。各団体の活動状況や地域の状況を知り、互いに食品や情報の交換をしながら、連携の仕組みづくりに向けて今後も定期的にこのような会を開催していくこととしました。
- 他のフードバンクへの視察
 - 株式会社マイファームが主催するフードバンク見学会に当法人スタッフ2名が参加し、それぞれセカンドハーベストジャパン、フードバンク山梨を視察しました。各団体の在庫や在庫管理、出庫の流れなどを知ることができ、参考になりました。

(4) 広報活動

① ホームページやSNSの活用

- 当法人を支援してくださる方、当法人から支援を受けたい方が欲しい情報にたどりつきやすいページにするため、「おしらせ」ボタンの位置変更や公式フェイスブック投稿記事の反映など、改良を加えていきました。
- ホームページを通じてのお問い合わせも多く、企業や市民の方と当法人がつながる有効なツールとなっています。また、日々の活動をフェイスブックやInstagramに随時投稿して、情報発信と当法人の活動を知っていただくきっかけとしています。

② イベントの開催や他団体主催のイベントへの参加

- 2022年10月22～23日：兵庫県民農林漁業祭（県立明石公園）に出展
子どもたちを対象にお菓子釣りゲーム、来場者へのチラシの配布によりフードバンク関西の活動紹介
- 2023年2月22日：「第5回 いのちとくらしの映画祭&講演会」開催（兵庫県民会館）
コープ自然派兵庫・コープこうべ他と当法人が実行委員会を組んで、貧困などの社会問題を市民と一緒に考える機会として開催しています。講師が直前に体調不良で講演中止となり映画「家族を想うとき」上映と地域で活動する支援団体の活動紹介となりましたが、123名の参加がありました。

③ 年次報告書、ニュースレターの発行：年次報告書（年1回）、ニュースレター（年2回）を発行しました。

- 2022年6月：年次報告書2022年度版（当法人の支援者に配布の他、活動紹介等で使用）
- 2022年6月：フードバンク関西ニュース46号（支援者、受け取り団体等に発送）
- 2023年2月：フードバンク関西ニュース47号（支援者、受け取り団体等に発送）

④ 講演活動・出前授業

- 生涯学習授業・大学・高校・中学校などからの依頼を受けて、日本の食品事情、フードバンク活動やフードバンク関西についての紹介を、オンラインを含めて16回行いました。

⑤ 報道機関などからの取材

- 2022年6月14日： 毎日新聞・地方版 食品寄付の現状について
- 2022年9月15日： ビッグイシュー Vol. 439
- 2022年11月23日： 神戸新聞 貝原俊民美しい兵庫づくり賞受賞について
- 2022年12月18日： NHK 神戸放送局 ローカルニュース 食品パック発送
- 2023年2月16日： 毎日新聞・兵庫版 生活困窮者への食支援（フードサポートネット）
- その他、朝日新聞や読売新聞などから電話取材があり、記事の一部として掲載

⑥ 「第7回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」受賞

- 2022年11月22日、これまでの当法人の活動実績とコロナ禍での困窮世帯への食支援事業を評価いただいた結果の受賞となりました。

IV. フードバンク関西の運営費の調達

フードバンク事業では収益性がなく、当法人の活動運営費は、活動趣旨に賛同して下さる賛助会員年会費、市民や団体からの寄付、そして助成金で賄っています。

(1) 賛助会員、個人・企業からの支援

- 本年度は、賛助会員からの年会費、一般の皆様からの寄付が、個人・法人を合わせて910件でした。クレジットカードでの継続寄付も順調に推移し、個人や企業から「子どもたちのために使って」「活動に共感します」とメッセージを添えてご支援くださることも多々ありました。

(2) 助成金・補助金

- 神戸市環境局のフードバンク活動支援助成、「BEKOBE ミライ PROJECT 殿堂入り賞」、神戸市福祉局の「生活困窮者に対して食料品・生活支援情報を提供するNPO法人等に対する補助金」を受け取ることができました。

(3) 2022年度の主な収入支出項目と金額（円）

• 収入

	個人	金額（円）	団体	金額（円）	合計金（円）
正会員年会費	27人	270,000			270,000
賛助会員年会費	245人	3,484,500	175件	3,359,000	6,843,500
一般寄付	450人	12,193,074	40件	6,061,897	18,254,971

助成金	神戸市・パブリックリソース財団・BEKOBE	1,462,718
補助金	神戸市福祉局暮らし支援課	1,000,000
その他の収益	受取利息・配送分担金・雑収入	565,270

経常収入合計	28,396,459
--------	------------

• 支出

費目・摘要		金額 (円)	費目・摘要		金額 (円)
事業費	人件費	2,326,822	管理費	賃借料	720,000
	食品配送経費	4,171,882		支払い手数料	475,335
	交通費	1,848,110		水道光熱費他	69,832
	賃借料	3,056,905		その他	87,264
	その他	7,560,408			
事業費合計		18,964,127	管理費合計		1,352,431
経常支出合計					20,316,558

2022 年度経常収支差額	8,079,901
---------------	-----------

V. フードバンク関西がかかえる課題

(1) 生活困窮者支援に必要とされる食品の継続的、安定的な確保

- 生活困窮者への食支援を拡大充実させ、健康的な食生活の維持に寄与するためには、それらに必要な食品の安定的な入手が課題です。困窮世帯支援に需要の高い食品を提供いただけるよう、さらに適正な食品管理やトレーサビリティなどを向上させ、フードバンクとしての信頼性を高めていきます。

(2) 運営費の安定的確保

- フードバンク事業では収益性がないため、活動を維持発展させるために、継続してフードバンク関西を支えてくださる方々を増やしていくよう、あらゆる機会を通じて活動をアピールしていきます。また、フードバンクに物や資金が集まりやすい行政施策の実現を望みます。

(3) 作業の効率化とボランティアスタッフ間での情報の共有、次世代の育成

- フードバンク関西は常勤職員を置かず、ボランティアが少しずつ業務を分担して運営をしています。それぞれが高いモチベーションをもって力を発揮するという良い面もありますが、情報の共有や指揮系統が明確でないという課題もあります。今後も継続してより適切に食品を入手、管理、分配するために、組織体制の見直しと2021年度、2022年度に導入した入出庫管理システムと会員管理システムの活用により作業効率を上げていきます。また次世代を担うスタッフの育成にも努めてまいります。

VI. 今後の展望

設立から20周年を迎えるにあたり、食支援を必要とする方々へ必要とされる食品をしっかりと届けられるよう、継続性ととともに適正な提供を目指し、フードバンクとしての信頼性の向上に努めます。また、行政機関や地域の支援団体と協働の枠組みの中で、食支援の役割を果たすよう各方面との連携体制づくりに努めます。

VII. フードバンク関西の概況

(1) 活動開始：2003年4月 法人設立：2004年1月26日

(2) 認定NPO法人の認定

国税庁からの認定：2007年11月19日 再認定：2009年10月19日

兵庫県からの認定：2013年12月27日

神戸市からの認定：2018年12月19日

(3) 主たる事務所：神戸市東灘区深江本町1丁目8-16-101

電話番号： 078-855-7025

FAX番号： 078-855-7028

メールアドレス： info@foodbankkansai.org

ホームページ： <https://foodbankkansai.org/>

Facebook： <https://facebook.com/foodbankkansai/>

Instagram： <https://www.instagram.com/foodbankkansai/>

(4) 役員

理事長	中島 眞紀
副理事長	上野 裕司 加賀城 俊正
理事	浅葉 めぐみ 松尾 粒一 丸山 優子 曾我 智史 小嶋 新
監事	山岡 明子

(5) 正会員（敬称略・アイウエオ順）

浅葉 めぐみ	芦高 康文	荒井 昌明	井坂 千代子
上野 裕司	加賀城 俊正	川崎 知浩	川口 純生
貴志 久美子	木下 忍	田原 将行	田村 宏
近本 博文	中井 龍司	中島 眞紀	西口 信幸
西村 秀明	野田 充	馬場 一徳	深堀 潤子
前川 舞子	松尾 粒一	松本 美佳子	丸山 優子
向 貴美子	山岡 明子	山地 昌子	

（以上27名）